

国際児童画展（50年継続）

届け世界へ！！私たちの願い

「第50回高崎ユネスコ国際児童画展」が、令和4年10月21日～26日（高崎市民シティギャラリー）にて今年も無事に開催されました。

昨年同様コロナウイルス感染防止のため、入場時の手指の消毒や健康調査表への記入、さらに検温など、種々の感染防止策を取ったうえでの開催でした。また、コロナ禍での児童・生徒の皆さんや指導する先生方の負担軽減を図るために、昨年同様の出品数とするなどの事前の配慮も行いました。その結果、小学校からは



514点、中学校・特別支援学校からは242点、合計で756点（昨年は753点）が出品されました。

20日に搬入と図工・美術主任会の先生方による審査が行われました。

入賞者は、94名（小学生62名、中学・特別支援学校生32名）でした。



高崎ユネスコ協会会長賞に選ばれた作品

小学校の部： 久留馬小学校5年 福田紀凧人
「木竜」



中学校・特別支援学校の部： 箕郷中学校3年 須藤香乃
「15歳の自分」



例年にも増してどの作品も素晴らしく、会場内からは「上手だねえ！」「凄いねえ！」などの賞賛の声があちこちから聞こえてきま



した。家庭学習の時間が長く、学校の授業が十分に受けられない環境下であるのにこれだけの作品を生み出せる児童・生徒の皆さんの力量の高さを改めて認識することができました。

5日間の総入場者数は3,054名でした。また同時に受付で行った寺子屋募金への協力額は35,632円でした。

ウクライナ児童（日本とポーランドに避難）の作品も展示

今年度も目黒ユネスコ協会会長、宮下晶子様のご協力により日本に避難しているウクライナ児童の作品1点とポーランドから送られてきた児童画数点が飾られました。（すべて複写）



市内二つの大学の学生と市内在住高校生が頼もしいボランティア

昨年に続き高崎経済大学ボランティアサークル ACT から6日間合6名、高崎商科大学から6名、新たに本庄東高校から1名協力していただきました。



受付周辺での案内誘導、検温、会場内見回り等でご協力いただきました。ACTの皆さんには、例年は青少年キャンプに同行していただいています。両大学の学生ボランティアの皆さんに限らず高校生を含む皆さんにも継続して協力をお願いできたらと強く思いました。